



—研究者たちの独創的で多様な研究活動を支援—
2025 年度稲盛研究助成に 50 名を採択

公益財団法人稲盛財団（理事長 金澤しのぶ）は、3 月 7 日（金）の理事会において、国内の自然科学、人文・社会科学の研究者を対象に、独創的で優れた研究活動に対して助成する稲盛研究助成の 2025 年度対象者を決定しましたので、お知らせいたします。



贈呈式の様子（2024 年）

採択人数：自然科学系 40 名／競争率 8.0 倍
 人文・社会科学系 10 名／競争率 8.6 倍 （計 50 名）
助成金額：1 件につき 100 万円（計 5,000 万円）を贈呈
助成実績：1985 年度～2025 年度＝延べ 1,929 名、19 億 1,940 万円

「2025 年度稲盛研究助成金贈呈式」は 4 月 19 日（土）に京都市内にて開催いたします。
また、贈呈式後は 3S^(*)交流会として、約 20 名の会員によるポスター発表が行われる予定です。
詳細は改めてお知らせいたします。

(* 3S：次頁 5. 参照)

■ 本件のお問い合わせ

公益財団法人稲盛財団 広報部 平川 直希・前口 沙織
〒600-8411 京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町 620 番地 COCON 烏丸 7F
TEL: 075-746-2523 E-mail: press@inamori-f.or.jp
URL: <https://www.inamori-f.or.jp>

※本資料は、[京都]京都大学記者クラブ、京都経済記者クラブ等に配布しています。



稲盛研究助成について

稲盛財団創業者 稲盛和夫の理念に基づき、未来の人類社会に貢献する人材育成を目的として、1985年より毎年、国内の自然科学、人文・社会科学の研究者を対象に、独創的で優れた研究活動を支援しています。

1. 2025年度選考結果

2025年度は、国内の選抜された国立大学、公立大学、私立大学、大学共同利用機関法人、その他の研究機関に所属する405名（自然科学319件、人文・社会科学86件）の研究者から応募がありました。

いずれの研究テーマも新しい視点やユニークな取り組みによりそれぞれの研究分野に発展をもたらし、将来的に人類や社会への大きな貢献が期待できるものです。2025年度を含めた稲盛研究助成の助成対象者は延べ1,929名、助成総額は19億1,940万円となります。

2. 助成金額

1件につき100万円。毎年、自然科学系40件、人文・社会科学系10件、計50件（5,000万円）を助成します。

3. 助成金の使途

当該研究の遂行に必要な経費である限りにおいて、その使途に制限はありません。

4. 伯楽制度

本研究助成のユニークな制度として「伯楽制度」があります。これは中国の故事「千里馬常有而伯楽不常有（千里の馬は常に有れども、伯楽は常に有らず）」にちなみ、当該年度の助成対象者に選ばれた方の中で、抜きん出て優秀かつ有望な研究を行うと選考委員会が認めた方に対して2年連続して助成する制度です（2025年度の適用者はありませんでした）。

5. 盛和スカラーズソサエティ（3S: Seiwa Scholars Society）

本研究助成を受けた対象者相互の交流と親睦を深めることによる研究のさらなる発展を願い、1997年に発足しました。専門分野が細分化され、学問全体が見えづらい近年、異分野間の横断的かつ学際的な思考の重要性がますます求められています。3Sの会員は、自然科学から人文・社会科学にいたる幅広い分野の研究者で構成され、研究発表、交流会、メールマガジンなどを通じて、専門分野を越えた交流をはかっています。



2025 年度稲盛研究助成 選考委員会名簿

2025 年度稲盛研究助成対象者は、下記の委員長および委員によりご選考いただきました。

委員長 巖 佐 庸 九州大学 名誉教授

[自然科学系]

委員 審 良 静 男 大阪大学 ワクチン開発拠点
先端モダリティ・DDS研究センター 拠点長
〃 上 田 正 仁 東京大学 大学院理学系研究科 教授
〃 影 山 龍一郎 理化学研究所 脳神経科学研究センター センター長
〃 片 岡 一 則 (公財)川崎市産業振興財団 副理事長
東京大学 名誉教授
〃 君 塚 信 夫 九州大学 大学院工学研究院 主幹教授
〃 経 塚 淳 子 東北大学 大学院生命科学研究科 教授
〃 佐々木 節 東京大学 国際高等研究所
カブリ数物連携宇宙研究機構 特任教授
〃 坪 井 俊 東京大学 名誉教授
〃 西 田 栄 介 理化学研究所 生命機能科学研究センター センター長
〃 野 田 進 京都大学 大学院工学研究科 教授
〃 安 浦 寛 人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 副所長
〃 柳 田 素 子 京都大学 大学院医学研究科 教授
〃 山 田 容 子 京都大学 化学研究所 教授

[人文・社会科学系]

委員 井野瀬 久美恵 人間文化研究機構 監事
〃 玄 田 有 史 東京大学 社会科学研究所 教授
〃 河 野 哲 也 立教大学 文学部 教授
〃 山 室 信 一 京都大学 名誉教授
〃 渡 辺 千 原 立命館大学 法学部 教授

※肩書きは 2025 年 3 月 1 日現在



2025 年度研究助成対象者ならびに研究題目

【自然科学系】

対象者	研究題目
イガ タカヒト 伊賀 隆史 慶應義塾大学 医学部 特任助教	加齢に伴う骨折治癒遅延の原因の解明
イカワ ケイスケ 井川 敬介 名古屋大学 大学院理学研究科 助教	不均一ながん微小環境で引き起こされる細胞間相互作用機構の解明
イシイ ケイコ 石井 慶子 中央大学 理工学部 准教授	廃熱を必要に応じて取り出せる多機能性流体の創生
イシザキ トモタカ 石崎 友崇 名古屋大学 医学部附属病院 病院助教	ヒト脳内電極で脳深部の謎を解く：生理的視床神経活動とてんかんの異常ネットワーク解明
イシバシ ミサキ 石橋 美咲 京都大学 大学院農学研究科 助教	イチゴの概日時計に対する器官別代謝リズムの影響
イチカワ コウヘイ 市川 幸平 早稲田大学 理工学術院 准教授	すばる望遠鏡HSCダークな電波天体からさぐる最遠方超巨大ブラックホールの探査
イチジョウ リョウ 一條 遼 京都大学 医生物学研究所 助教	毛包幹細胞遠隔制御メカニズムの解明
ウチヤマ ハルキ 内山 晴貴 名古屋大学 大学院工学研究科 助教	低電位析出による低次元材料/絶縁膜の界面エンジニアリング
オオマガリ シュン 大曲 駿 東京科学大学 物質理工学院 助教	超解像蛍光顕微鏡法と感温性希土類蛍光ナノビーズを組み合わせた新規ナノ温度計測技術の概念実証
オクイ マナブ 奥井 学 中央大学 理工学部 准教授	人工筋肉駆動打楽器演奏ロボットの開発を通じたヒトの脱力活用メカニズムの解明
カツハラ コウキ 勝原 光希 岡山大学 学術研究院環境生命自然科学学域 助教	送粉者を介した競争関係にある植物の多種共存メカニズム
カラサワ タダヨシ 唐澤 直義 自治医科大学 分子病態治療研究センター 講師	脂質代謝を標的とした順遺伝学による細胞死の制御法の確立



対象者	研究題目
キタヤマ ユキヤ 北山 雄己哉 大阪公立大学 大学院工学研究科 准教授	α リポ酸共重合体微粒子に対する界面光架橋反応を利用したpH応答性・主鎖分解性高分子カプセルの開発
クスモト ソウタロウ 楠本 壮太郎 神奈川大学 化学生命学部 特別助教	有用な溶媒蒸気を汎用的に捕捉可能な高機能吸着材料の開発
コウサイ ショウキ 光斎 翔貴 立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構 准教授	乗り換えかレストアか？自動車の資源循環を踏まえた天然資源消費量の評価
サコダ マサヒト 迫田 将仁 北海道大学 大学院工学研究院 助教	強相関化合物CaRuO ₃ で現れる桁外れなサイズ効果のメカニズム解明
ササキ ヨウイチ 佐々木 陽一 九州大学 大学院工学研究院 助教	励起子分裂の光エネルギー貯蔵への応用
サナキ ユウヤ 佐奈喜 祐哉 筑波大学 生存ダイナミクス研究センター 助教	腸内細菌と生理学的ストレスがもたらす代謝脆弱化機構
シラトリ ミホ 白鳥 美穂 順天堂大学 薬学部 准教授	一次求心性神経の遺伝子発現変化から迫る炎症性皮膚疾患の病態解明
タカスギ マサキ 高杉 征樹 大阪公立大学 大学院医学研究科 講師	適応的な加齢変化とその制御機構の解明
タカノ テツヤ 高野 哲也 九州大学 高等研究院 准教授	高精度プロテオーム解析を用いたストレス応答神経回路の分子レベルの解明と精神疾患の理解
タカハシ シュン 高橋 駿 京都工芸繊維大学 電気電子工学系 准教授	らせん型半導体フォトニック結晶を用いた電子スピン制御
タカハシ シンタロウ 高橋 慎太郎 学習院大学 理学部 助教	脱テルル化反応を駆動力とする新規な典型元素カップリング反応の探索
ナカタ ユウイチロウ 中田 雄一郎 千葉大学 大学院医学研究院 特任助教	メタボリックシンドロームが構築する心不全関連エピジェネティックメモリーの制御機構の解明



対象者	研究題目
ナカノ リョウヘイ 中野 亮平 北海道大学 大学院理学研究院 教授	根圏常在細菌が分泌し宿主植物の成長を制御する生理活性物質の同定
ナカムラ ユウスケ 中村 勇哉 名古屋大学 大学院多元数理科学研究科 准教授	周期グラフの数え上げ組合せ論への代数幾何学の応用
ヒガシノ トモヒロ 東野 智洋 京都大学 大学院工学研究科 准教授	マッカイ結晶実現に向けた三次元周期構造を有する π 共役分子の開発
ヒラノ アリサ 平野 有沙 筑波大学 医学医療系 助教	体温リズムを制御する神経メカニズムの解明
フクシマ トモヒロ 福島 知宏 北海道大学 大学院理学研究院 講師	振動強結合下での水和イオンの物性制御
フルカワ カナ 古川 可奈 大阪大学 エマージングサイエンスデザインR3センター 特任助教	進化的に保存された気管組織ジャバラ様構造形成メカニズムの解明
ホソノ ノブヒコ 細野 暢彦 東京大学 大学院工学系研究科 准教授	ナノポーラス材料を利用したタンパク質精製およびリフォールディング技術の開発
マキノ シホ 牧野 支保 東京大学 定量生命科学研究所 助教	初期胚発生におけるRNA分解の選択性を生み出す時空間的制御
ミヤウチ エイジ 宮内 栄治 群馬大学 生体調節研究所 准教授	母体炎症による子の1型糖尿病増悪機序の解明
ミヤモト ユウ 宮本 佑 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任助教 (常勤)	肝臓におけるマクロファージを基軸とした生体防御バリアの実態解明
ムネカネ マサユキ 宗兼 将之 金沢大学 医薬保健研究域 助教	放射性ハロゲンで標識した抗体薬物複合体の開発
モリモト サトル 森本 悟 慶應義塾大学 殿町先端研究教育連携スクエア 特任准教授	筋萎縮性側索硬化症における病態回避機構の解明と治療法開発



対象者	研究題目
ヤギタ ユウイチ 八木田 悠一 九州大学 基幹教育院 助教	タンパク質複合体を正しく組み立てる仕組みの解明
ヤマネ ケイスケ 山根 啓輔 豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 准教授	シリコンフォトニクス応用に向けたIII族-V族元素共添加 ゲルマニウム発光素子材料の開発
ルジ トリシット ルジ トリシット 岡山大学 惑星物質研究所 准教授	地球外生命探査に向けた火星北極周辺の液体塩水の存否 検証と水質推定
ワタナベ タカイチ 渡邊 貴一 岡山大学 学術研究院環境生命自然科学学域 准教授	リサイクル可能なイオン伝導性ビトリマーの開発
小計 40件	

(【人文・社会科学系】対象者は次頁)



【人文・社会科学系】

対象者	研究題目
アライ ハルカ 有井 晴香 北海道教育大学 教育学部 准教授	エチオピア村落地域における性的マイノリティによる子育てにみる社会関係
イケハタ フキコ 池端 露子 立命館大学 衣笠総合研究機構 准教授	イスラーム的価値をめぐる競合と合意の国際政治：イスラーム協力機構を舞台としたイラン外交の事例から
ウ カイシュン 于 海春 北海道大学 大学院メディア・コミュニケーション研究院 助教	ソーシャルメディアデータを用いた中国のナショナリズムと科学的偽情報の実証分析
ウラタ マユ 浦田 真由 名古屋大学 大学院情報学研究科 准教授	世界遺産白川郷における地域住民および観光客の主観情報収集によるオーバーツーリズム指標の開発
ツナシマ ヒロユキ 綱島 洋之 大阪公立大学 都市科学・防災研究センター 特任講師	園芸療法の現象学—実践者の主観的経験の積極的評価による「障害の社会モデル」の適用
ナリタ リュウイチロウ 成田 龍一朗 秋田大学 教育文化学部 助教	社会の分断に対するエゴイズム論の可能性—ドラ・マースデンを手掛かりに
ハシグチ アキコ 橋口 晶子 筑波大学 医学医療系 助教	研究コミュニティによるピア評価は、新たな学問分野を着想する専門家を見出し育成できるのか
ミズタニ トモヒコ 水谷 智彦 山形大学 地域教育文化学部 講師	戦前期における学校の選抜・配分機能をめぐる考察—大正期・昭和初期の「個性調査簿」に着目して—
ミナリ ジュサク 三成 寿作 京都大学 iPS細胞研究所 特定准教授	ゲノム編集技術の急速な発展に伴うヒト受精卵のあり方に関する倫理的考察
リ ナイキ 李 乃琦 名古屋大学 高等研究院 特任助教	「古代仏教辞典データベース」の構築と公開に向けた基礎的研究
	小計 10件
	計 50件

※肩書きは 2025 年 3 月 7 日現在